

様式第3号

## 会 議 録

会議名 (付属機関等名)		第17回(平成30年度第1回)キセラ川西エコまち協議会	
事務局(担当課)		土木部 キセラ川西推進課	
開催日時		平成30年10月26日(金) 10時00分～12時00分	
開催場所		川西市役所 4階庁議室	
出席者	委員	加藤、松村、武田、牧田、加美田、松塚、大西、中垣、畑中、作田、阪上、篠崎、井上、五島、北野(敬称略)	
	その他	(オブザーバー) 菅沼、大平、福澤(敬称略)	
	事務局	宮定、寺田、古山、池永、松村、名嘉眞 絹原、中川、西本、小倉(調査機関)	
傍聴の可否		可	傍聴者数 0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第		1 開会あいさつ 2 報告(前回からの動き) <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 建築行為等の手続条例運用状況(資料1-1-1、1-1-2)</li> <li>・ 交通部会について(資料1-2)</li> <li>・ みどり部会について(資料1-3-1、1-3-2、1-3-3)</li> </ul> 3 議事 <ul style="list-style-type: none"> <li>① キセラ川西エコまち計画におけるモニタリングについて             <ul style="list-style-type: none"> <li>①-1 建築分野におけるエネルギーモニタリング (資料2-1-1、2-1-2)</li> <li>①-2 みどり分野におけるまちの緑化モニタリング及び状況報告 (資料2-2-1、2-2-2)</li> </ul> </li> <li>② 環境学習・普及啓発について(資料2-3-1、2-3-2)</li> <li>③ エコまち建築賞の開催等について(資料2-4)</li> </ul> 4 今後の予定	
会議結果		別紙審議経過のとおり	

# 審 議 経 過

## <開会>

### 1. 開会あいさつ

(土木部 部長あいさつ)

- ・お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。
- ・このキセラ川西の整備事業は工場跡地から市施工での土地区画整理事業が決まり、付加価値を高めていくこと、また、エコな時代であるという2つを柱に据えて進めてきた。
- ・勉強会を平成 23 年度にはじめて、平成 24 年度に協議会を立ち上げた。検討当時、エコまち法の成立の時期であり、エコまち法に基づいた低炭素まちづくり計画の第1号として計画策定を行い、これまで取り組みを進めてきたが、出来ることからやっていくということが重要と感じている。
- ・計画策定後、エネルギー事業者の方々やコンサルタントの方にお世話になりながら進めてきて、エコまち運用基準を作成した。土地区画整理法第76条の許可さえとれば建物が出来てしまうので、運用基準を指導する土俵がないということで、手続条例をつくり、必ずキセラ川西地区の中で土地利用する時には、エコまち運用基準に乗っ取るよう運用してきた。手続きも含めてこの協議会でご議論いただいて、効果が出ているのかなと思っている。
- ・議題にモニタリングもあがっているが、エネルギーをどれくらい使っているのかということは地権者の方の同意が必要であり、運用基準の項目にもなっているが、電力会社からデータでいただくことが難しい部分もある中で、地区内のみなさまに協力いただきながら進めてきたところである。大々的な大きなことは出来ていないが、出来ることを積み上げてきている。今後も身近に継続できることを続けていきたい。いいまちをめざして引き続き取り組んでいきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻いただければと思う。

### 2. 前回からの動き

#### ○事務局

- ・資料説明
  - 資料 1-1-1 建築行為等の手続条例運用状況
  - 資料 1-1-2 キセラ川西プラザ\_パンフレット
  - 資料 1-2 交通部会関連資料
  - 資料 1-3-1 みどり部会関連資料
  - 資料 1-3-2 キセラ川西せせらぎ公園利活用ガイドライン
  - 資料 1-3-3 公園利活用状況

#### ○会長

- ・みどり部会の成果をご説明いただいた。資料 1-3-2 ガイドラインは、検討された資料 1-3-1 を反映したものか。

#### ○事務局

- ・反映したものである。

○会長

- ・ガイドラインが有効に働いているという理解でよいか。利用による収入はあったか。

○事務局

- ・9月以降から料金を取る体系になっているが、収入を伴うイベントにはつながっていない状況である。

○委員

- ・8月末までの試行ガイドラインは誰でも無料で利用できるということで、これだけ活用されているが、収入は無料であった。今後、本格運用となり、利用団体が減るか増えるか、また、収入はいくらになるのか、その状況を見る1年になるかと思う。

○会長

- ・交通部会について、検討いただいた内容は、なかなか難しい問題であると思う。公共交通利用促進以外で2次交通手段について、議論にはあがっていないのだろうか。例えば、最近は自転車も使われるようになっているが、事故も多く、自転車政策が交通政策であげられるようになっている。

○委員

- ・レンタサイクルを検討いただいたが、なかなかうまくいっていないというのが現実である。ご指摘いただいたように、川西南部や県境府境を超えて池田なども含めて広域で自転車を活用できる取り組みにできればと思っているが、そこまで検討がいたっていないのが現状である。
- ・自転車による交通事故などの話もあるので、自転車道の整備とあわせて、自転車の利用を促していきたいと思っている。

○会長

- ・交通部会は来年度くらいに目途がくると思うが、エコの精神をどこまで続けることができるのかということをお心配している。来年度で終わってしまい、交通政策もなくなってしまうのではという危惧もある。

○事務局

- ・計画年度は平成34年度までである。
- ・自転車交通については、キセラ川西地区はキセラ川西推進課が担当しているが、他部署で自転車道の整備など進めているところである。一定の方向性は出ていて、全て網羅できるかは課題であるが、市の方針に沿って進めていきたいと思う。

○委員

- ・公園の利用ガイドラインで、低炭素という視点で公共交通利用促進が記載されているが、以前の会議で手間がかからず出来るので、川西まつりなど大規模なイベントなどを対象にカーボンオ

フセットを推進する項目を盛り込んでとは伝えた。カーボンオフセットについてどんな検討をされたか教えていただければと思う。

○事務局

- ・現時点、イベントの申請に対して、環境配慮については公共交通利用促進についてお願いしているが、それ以上の対応が出来ていない。今後、出来るところから進めていきたい。

### **3. 議事**

#### **① キセラ川西エコまち計画におけるモニタリングについて**

##### **①-1 建築分野におけるエネルギーモニタリング**

○事務局

- ・資料説明

資料 2-1-1 建築分野におけるエネルギーモニタリング【はじめに】

資料 2-1-2 建築分野におけるエネルギーモニタリング

○会長

- ・成果が着々と進んでいるようだ。何かご質問があればいただきたい。

○オブザーバー

- ・きちんとモニタリングをされているところがすごいなと思う。地区全体のガス利用量が増えているということだが、これは、集合住宅が出来て人口が増えているからだということでは理解した。
- ・確認だが、推定値よりかは下がっているということでは良いか。着実に成果をあげられているのかと思う。

○委員

- ・単体の建物のエネルギーモニタリングを実施しているケースはあるが、それがまち全体に対してどれくらい寄与しているのかということは研究されていないし、また他地域でも実施できていない。その取り組みをこの地区では出来ていて、素晴らしい。
- ・キセラ川西のこのモニタリングは、良い取り組み方の事例かと思う。

○オブザーバー

- ・立ち上げ当初、スマートコミュニティということで進めている時に FS 調査（医療等次世代複合都市でのインフラ（共同溝、水路等）新規整備を活用した熱融通等事業化可能性調査）の計画を立てられた。その際は地中熱などが盛り込まれており、現在、その通りになっているわけではないが、その時にまち全体でどう減らしていくかということを調査して、理念を達成するために、仕組みを設計、運用されてきたということが、この結果につながっていると思う。
- ・手続条例をつくられて、トータルコントロールできる仕掛けをつくられたというのが素晴らしいと思う。着実に積み上げられた結果なのではないかと思う。

○委員

- ・PFI 事業で、モニタリングできる期間があるということで、責任をもって実施できている、いい事例ではないかと思う。

○オブザーバー

- ・おっしゃられたように、理念があり、さらに開発で終わるのではなくフォローアップできる仕組みが出来ているというのが素晴らしい。

○会長

- ・いかに PR していくのかということも考えてはどうかと思う。効果測定をして、結果が分かるということであれば、効果測定調査に予算がついてもよいはずであり、調査費も継続して考えてはどうか。
- ・それでは、次の議論にうつりたいと思う。

**①-2 みどり分野におけるまちの緑化モニタリング及び状況報告**

○事務局

- ・資料説明

資料 2-2-1 みどり分野におけるまちの緑化モニタリング及び状況報告

資料 2-2-2 定点写真の撮影方法

○会長

- ・緑視率の状況図を今後整理させていくということかと思う。図の数値は実績値か。
- ・経年変化は見ていくのか。

○事務局

- ・プロットの数値は完了報告値である。経年変化については定点写真を撮影し、見ていく予定である。

○会長

- ・性善説に立って考えると緑は増えていくものだが、枯れていくものもある。モニタリング期間の 2～3 年は増えていくということで考えてよいだろうか。

○委員

- ・はい、そうである。

○会長

- ・高木による二酸化炭素の固定・吸収量の把握という項目があがっていたが、どのようなことをするのか。

○委員

- ・国でも二酸化炭素排出量を算出する際に、都市緑化の吸収量を含めている。高木の吸収量は国でも把握されており、エコまち法の中でも算出方法が記載されているので、高木を確認して、二酸化炭素の吸収量を把握していく予定である。
- ・毎年、地区内の高木を確認していく。

#### ○事務局

- ・前回、みどり分野について、各委員からご意見いただいた時に、PFI 事業者から高木による二酸化炭素の固定・吸収量の算出という提案が出てきた。
- ・改めて低炭素まちづくり計画を見直す中で、PFI 事業者の提案を見直した。高木については、二酸化炭素排出量の削減量を算出するというところで、着実にいった中でエネルギー分野の報告の中で報告していきたいと思う。

#### ○会長

- ・吸収量として出していくが、エネルギーの削減量には加味せず、それぞれで表現していくということか。

#### ○事務局

- ・その通りである。

#### ○委員

- ・研修室の学生が、卒業論文で低炭素まちづくり計画をつくっている 24 都市について比較した。既存の計画を寄せ集めた自治体もあれば、キセラ川西のように重点エリアも設置し、項目もチャレンジングな内容にしている地域など様々である。その中でも、キセラ川西は、みどりが一分野としてたっているというのも特徴的である。さらに、モニタリングや計画の推進体制が計画の中で重要であるが、推進体制も充実している。
- ・ただ、みどり分野のモニタリングは残りの計画期間の 4 年であり、その期間で見えることと、緑の成長のタームとはあわない部分もある。エネルギー削減と分けて考えることも重要である。
- ・量は単純に還元できるが、質をどう評価していくのかということは、かなりプラスアルファで取り組んでいただいている内容である。
- ・今回のご提案の内容でよいと思うが、モニタリング結果をどうフィードバックしていくのか、この地区の計画はもとより市全域や全国のお手本として他地域へ普及啓発していただくと良いかと思うので、今後、蓄積したデータをどう活用いただくかということもセットで考えていただければ良いと思う。

#### ○会長

- ・引き続きモニタリングは、がんばっていただきたいと思うし、蓄積されたデータは今後検討いただければと思う。最後は、まちのブランドに帰着するという事ではないかと思う。PR や演出もしていただきたいと思う。

○オブザーバー

- ・緑化のモニタリングは間口緑視率のことだけを言っているのか。公園も含んでいるのか。

○事務局

- ・事前協議での数値を入れているので、公園や街路樹の数値は入っていない。

○オブザーバー

- ・なぜ、その数値は入れていかないのか。

○会長

- ・まず、間口緑視率のデータがとりやすいからということがあるだろう。さらに、公共の公園は、別途プラス要因になるわけである。公園は別途考えてもよいのかもしれない。

○委員

- ・高木の削減量は、公園の樹木も含まれているかと思う。間口緑視率は、公園は100%となるのであまり意味がない。間口緑視率は、質の評価として、訪れた人の緑の実感や貢献度を図ろうとしている指標である。

○オブザーバー

- ・質問の意図としては、まち全体での低炭素化を考えると、建物はエネルギーモニタリングしている。みどりについて、間口緑視率は算出していて、公園は別途算出しているというよりは、まち全体で表現すると効果がより示しやすいのではないか。
- ・まちの価値は、二酸化炭素排出量がどれだけ減ったかということもあるが、いこいの森やせせらぎも、管理によっては人が寄り付かない場所になってしまう。役所が全部、管理手法を決めているが、市民をより巻き込んでいく、いこいの森を充実させるなども考えていく必要があるのではないかと思う。

○委員

- ・川西市の取り組みは、かなり頑張っているだけ市民参加で実施している状況ではある。
- ・近隣公園とも比べても、市民協働の枠組みで出来ていると思うが、PFI後、どのように進めていくかは課題としても認識されていると思うし、20~30年維持できるのかということがポイントであると思う。

○オブザーバー

- ・仕掛けがまわっていくかということが大事である。いいものが出来てきているので、いかに発展させていくのかということで、しっかり仕掛けをしてほしいと思う。

○委員

- ・二酸化炭素吸収量に関連して、今後のアイデアとしてお伝えしたい。いわゆる木質化、まちの中

で木を使うということについて、国交省も建築に関する法律の改正なども進めていっているところである。木を使うということに着目していってはどうか。東京の港区が先行して実施しているが、二酸化炭素排出量の吸収固定なども実施している。国交省は、木質化によって都市の価値を高めようということも検討されている。

○会長

- ・みどり分野でということではなく、全体へのご提案かと思う。
- ・以上、みどり分野を中心とした緑化モニタリングについてこのように進めていければと思う。

## ② 環境学習・普及啓発について

○事務局

- ・資料説明  
資料 2-3-1 環境学習・普及啓発について【はじめに】  
資料 2-3-2 環境学習・普及啓発について

○委員

- ・環境学習をしている主体はだれか。

○事務局

- ・主催は市で、PFI 事業者が実施しており、講師はゆめほたるの方に企画をお願いしている。

○委員

- ・そのような形も良いかと思うが、前回もお伝えしたが、教育委員会などとも連携した方がよい。例えば、キセラ川西地区を題材に教材開発をしてはどうか。
- ・また、大学との連携もあるのではないか。教育学部の学生さんは、たくさんボランティアで教材開発をさせられている。学生にとっては勉強でもあり、将来のためにもなるし、地域にとっても良い。教育系の大学と連携すると持続的に活動できるかもしれない。既存の団体とも連携してはどうか。

○委員

- ・2020 年に指導要領が変わっていくので、その流れにのってはどうかと思う。
- ・東条湖におもちゃ王国があるが、神戸芸工大と連携してアナログな体験を推進して想像力を育てることを実施している。出来ればきれいなプログラムだけでなく、アナログな体験やプログラムを増やしてもよいのではないか。
- ・以前、小型家電リサイクルをテーマにショッピングセンターの一角で小型家電をもってきてもらって壊す体験をするというプログラムを実施したことがあるが、盛り上がった。

○会長

- ・低炭素まちづくり計画の中で進められている活動である。市民への普及啓発の仕組みの導入と謳



っていて、それに基づいて PFI 事業者が実施して、市が支援しているという形態で進んできているようだが、ご指摘のような他と連携を考えるとときに、主体として誰がプロモートするのが見えてこない。

- ・市の事務局がとりもって、枠組を作る時に予算はどこから出すのか。今は事業の中で実施しているが、環境学習は平成 34 年度まで実施するとして、他と連携するときに財政の問題や協働について交渉していく必要がある。可能性としてどうか。

○委員

- ・今回のご説明では、環境学習について市がこれだけがんばっているという説明だったが、情報として不足していると思う。公園を活用した活動でも、水生生物の観察会は教育委員会として実施していたり、プレーパークの取り組みは、子どもたちへの環境への効果もある取り組みである。私も研究室の学生を使って、公園でイベントをしてみようということも試行的にプログラム開発をして実施した。また、キセラ・カフェの取り組みが何回か実施されているが、これは公園を作って終わるのではなく、作った後も有志が集まって、大掃除のイベントを実施するなど手弁当で皆さん進めている。市民中心のプラットホームが育ちつつあるので、PFI 後の運営のプラットホームとしての育て方が重要かと思う。
- ・現在、公園の管理棟を市民参加型で作っており、木造の建物も作っている段階である。プログラムの運営をどう市民と育てていくことが大事な点かと思う。出来ることは着実にやっているという状況かと思う。

○会長

- ・さきほど言われたイベント主体に対する環境への配慮の呼びかけについて、再度ご提案いただければと思う。

○委員

- ・大規模なものだけでよいと思うが、カーボンオフセットを実施し、イベントのアナウンスの中で、キセラ川西はエコな地域でカーボンオフセットをしていますということだけでも市民の中に浸透していくかと思う。

○会長

- ・ご提案の内容は、普及啓発の枠組みにも入ってくるかと思う。

○事務局

- ・エコまち協議会とみどり部会、もう少し踏み込んだ連携ができるのではないかとご意見をお聞きしていた。現在も市民活動の一定の動きもあるが、資料として示してきていないものもある。
- ・つなげる体制をとることが出来れば、キセラ川西地区の環境に対する視点や取り組みは大きなものになってくると思うので、その点も視野に入れて考えていきたいと思う。

○会長

- ・期待したいと思う。モデル事業として生み出した芽を全市に広げるとするならば、国から補助をいただいた意味があると思う。

### ③ まち建築賞の開催等について

#### ○事務局

- ・資料説明  
資料 2-4 エコまち建築賞の開催等について

#### ○会長

- ・今年度は3件の倉庫であることから、2年に1回、来年度もあわせて実施してはどうかというご提案である。もう1点は、選考漏れになったものについて、高ラベリングで表彰しておいて棚卸をするという考え方かと思う。
- ・問題はないかと思う。特にご意見なければ改定をして進めていければと思う。
- ・本地区は、非常に多岐にわたって、細かく実績をあげてきている。総合政策のたまものではないかと思う。川西市の総合政策部から何かご意見いただければと思う。

#### ○委員

- ・いい会議を聞かせていただいた。市の財政状況は厳しい状況であるが、松村先生の言っていた取り組みなどは興味がある。お金のかからない取り組みを模索していく必要がある。
- ・本日は、現市長の最後の日である。次が新しい市長のもとで、市の計画を進めていくところである。

## 5. 今後の予定

#### ○事務局

- ・エネルギーモニタリング結果や高ラベリング物件の公表は順次手続きを進めて公表していきたいと思う。建築賞は来年度実施していきたい。
- ・次回のエコまち協議会は来年の2月頃を予定している。改めて連絡できればと思う。

#### ○会長

- ・それでは、特になければ、これで閉会したいと思います。ありがとうございました。